

六月自主公演番組

能

後シテ平忠度の霊
前シテ樵翁 栗谷明生

忠度

ワキ旅僧 森 常好

ワキ連徒僧 森 常太郎

ワキ連徒僧 則久英志

アイ須磨の浦人 河野佑紀

大鼓 亀井広忠
小鼓 観世新九郎
笛 藤田朝太郎

後見 香川靖嗣
松井 彬

友枝雄太郎 佐々木多門
佐藤 陽 金子敬一郎
地謡 佐藤寛泰 粟谷能夫
谷 友矩 内田成信

狂言

雁大名

シテ大名 野村万蔵

アド太郎冠者 能村晶人
小アド雁屋 野村 萬

休憩(二十分)

能

後シテ紫式部の霊
前シテ里女 長島 茂

源氏供養

ワキ安居院法印 館田善博

舞入

ワキ連徒僧 梅村昌功

ワキ連徒僧 吉田祐一

大鼓 佃 良勝
小鼓 曾和正博
笛 一噌庸二

後見 友枝昭世
内田安信

金子龍晟 谷 大作
地謡 塩津圭介 狩野了一
友枝真也 出雲康雅
狩野祐一 大島輝久

休憩(十分)

仕舞

嵐山

友枝真也

地謡 塩津圭介
佐藤章雄
大島政允
金子敬一郎

能

後シテ妖狐の霊
前シテ里女 高林呻二

殺生石

ワキ玄翁和尚 村瀬 提

アイ玄翁の能力 野村万之丞

大鼓 佃 良太郎
小鼓 幸 信吾
太鼓 大川典良
笛 寺井久八郎

後見 粟谷幸雄
塩津哲生

高林昌司 粟谷充雄
地謡 佐藤 陽 中村邦生
粟谷浩之 大村 定
谷 友矩 友枝雄人

附祝言

終了予定時刻五時頃

忠度(ただのり)

旅僧が、須磨の浦で薪を運ぶ老人に出会い、一夜の宿を求め。すると平忠度の詠んだ「行き暮れてこの下蔭を宿とせば 花や今宵の主ならまし」の歌を引いて、この花の蔭ほどの宿は他にないと僧に勧める。そして自分がその忠度であることをほのめかして姿を消す。(中人) 旅僧が花の蔭に仮寝をしていると、夢の中に平忠度の霊が現れる。忠度は自分の歌が『千載集』に採用されたが勅勘である為に、「読み人知らず」とされたことを嘆き、都に帰ったらこれを撰者の藤原俊成の子、定家に伝えて作者名を明記して欲しいと訴える。そして出陣の際に藤原俊成の家を訪ね歌を託したこと、一の谷の合戦で岡部六弥太と戦って討死したこと、その際に簾につけた短冊で六弥太に名を知られたことを物語り、跡の弔いを頼んで消え失せた。

(約九十五分)

雁大名(がんだいみょう)

訴訟も片つき国もとへ帰国する大名が、在京中に世話になった人に振る舞いをしようと、太郎冠者に肴になるものを買ってくるよう命じる。太郎冠者は、初雁(はつがん)を買おうと店の亭主に値を負けさせますが、代金を持っておらず買う約束だけして引き返す。そのことを大名に告げると、大名も金を持っていないと言るので、冠者はただで雁を手に入れる方法を思いつき、まずは大名が先ほどの店へ行ってお国言葉で亭主に近づくと...

(約二十五分)

源氏供養 舞入(げんじくようまいり)

安居院の法印が石山寺へ参詣しようとする途中、女に呼止められる。自分はこの石山寺で『源氏物語』を書いたが主人公の光源氏の供養をしなかったために成仏が出来ないので、光源氏と自分の供養を求めてくる。そして里女が紫式部の霊と分かると法印は供養を引き受ける。(中人) 法印が石山寺で光源氏と紫式部の霊の供養をしていると、紫式部の霊が現れ、『源氏物語』の巻の題を織り込みつつ、世の無情と弥陀の導きを願った舞を舞う。そして光源氏の供養と併せて自らも成仏が出来ると言ってお喜び『源氏物語』は石山の観世音が紫式部となって仮にこの世に現れ、この世が夢であること、この物語によって人々に知らせた方便であると言って消え失せる。(約八十五分)

殺生石(せつしょうせき)

玄翁和尚が那須野原を通りかかると、ある石の上で鳥が落ちるのを不思議に思い近づこうとする。すると里女があらわれ、これは殺生石といって恐ろしいところなので立ち去るようという。玄翁がその石の謂れを問うと、昔、鳥羽の院に仕えた玉藻前は実は妖狐で、帝に近づいて命を取ろうとした。しかし陰陽師の安倍泰成に正体を見破られてこの野に逃げてきたが退治され、その執心が石となったと語る。女は自分がその石魂であると明かして石の中へ消える。(中人) 玄翁が石に向かって仏事を営み引導を渡すと、石が割れて中から妖狐の霊が現れる。そして、国を滅ぼそうと玉藻前になり近づいたが安倍泰成に調伏され、遣わされた二人の武士に退治される。その後は執心が殺生石となって悪事をしてきたと語るが、玄翁の法力を得て今後は悪事はしないと約束をして消え失せる。(約七十分)

平成二十九年 九月 自主公演番組予告

平成二十九年 九月二十四日(日) 正午始
十四世喜多平太記念能楽堂

経政 谷 大作
半蔀 友枝真也
阿漕 出雲康雅